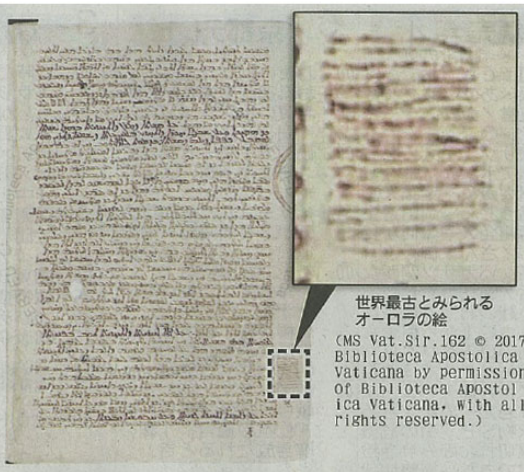

世界最古とみられるオーロラの絵

(MS Vat.Sir.162 © 2017 Biblioteca Apostolica Vaticana by permission of Biblioteca Apostolica Vaticana. With all rights reserved.)

オーロラ 世界最古の絵か

8世紀後半 年代記に

中東の修行者が描く

8世紀後半の中東で描かれたオーロラとみられる絵が見つかったと、京都大などの研究チームが明らかにした。現在のトルコ南東部で暮らしていた修行者が書いた年代記の余白に、オーロラが横向きに描かれていた。オーロラの絵としては世界最古の可能性があるという。

縦じまのオーロラ（スウェーデンで撮影。海老原祐輔・京大准教授提供）

京大の磯部洋明准教授（宇宙物理学）や大阪大の大学院生・早川尚志さん（東洋史）らのチームが世界の文献から過去のオーロラを調べる中で見つけた。

描かれていたのはバチカン市国の図書館が保管している「ズークニーン年代記」という書物。トルコ南東部の街ディヤルバクルの近くにあった修道院の修行者が、日々の出来事をシリア語で書き留めていた。771～72年にかけての出来事として、「東西の端から北の空いっぱいに、血のような赤、緑、黒、黄の杖が下から上に立ち上がった」「それは70通りに形を変えた」などと、オーロラの特徴によく似た記述があり、その横の余白に、並べた線で描写されていた。

この街は北緯37度付近で緯度が比較的低い地域にある。このような地域では、太陽活動が活発な時期に様々な色の縦じまの光が空に向かって伸びる「低緯度オーロラ」が見えることがある。書物に描かれた線は、ページ右側を天頂方向として縦じまの光をスケッチしたと考えられるという。これまで最古とされていたオーロラの絵は1527年に欧州で描かれたものだった。

塩川和夫・名古屋大教授（地球物理学）の話「低緯度オーロラの記録から、この時期、太陽活動が特に活発だったと推測できる。過去の太陽活動がわかれば、地球の気候変動も探ることができるだろう」

2017年6月27日付読売新聞（夕刊）９面
読売新聞社掲載